

【別添2】

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

(様式例1)

I 自己評価			岐阜県立岐阜商業高等学校 (定時制課程)		学校番号	902
1 学校教育目標	<p>基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、商業教育をとおして「生きる力」を育成し、地域社会に貢献しうる有為な商業人の育成を目指し、特に次の目標の実現に努める。</p> <p>1 普通教育及び商業に関する専門教科の基礎学力を着実に習得し、将来にわたって創意をはたかせ、進歩向上を図る商業人を育成する。</p> <p>2 心身ともにたくましく、強い意志と実践力のある商業人を育成する。</p> <p>3 礼儀を重んじ、社会秩序を守り、進んで協力・奉仕する商業人を育成する。</p>					
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)	<ul style="list-style-type: none"> ・商業の実習授業や資格検定の取得を通して、商業に関する技能を主体的に身に付けようとする生徒 ・将来の地域社会の担い手として、礼儀を重んじ、社会秩序を守り、進んで協力、奉仕する生徒 ・自分の適性や興味、関心を見極め、進路実現に向けてチャレンジする生徒 		
3 現状の分析	<ul style="list-style-type: none"> ○在籍生徒は全般的におとなしく真面目である。商業科目の資格取得にも前向きな姿勢で取り組んでいる。 ○全校生徒の約80%が就労 (アルバイト) をしながら家計を助け、学業との両立に努めている。 ○職員は一人一人の個性を尊重して、熱意をもって支援に努めている。 ▲全校生徒の約45%が小中学校時代に不登校を経験している。また、学習障害の疑いのある生徒、学び直しを目標に再入学してきた生徒等、多様な生徒が在籍しており、学習面において基礎・基本的な学力が十分身に付いてない。 ▲集団生活の経験不足から人間関係を構築することが苦手で、コミュニケーション能力が十分身に付いていない生徒が多い。 					
4 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として必要な基礎・基本的な学力を身に付ける。 ・社会人として求められる規範意識や、良好な人間関係を構築する社会性を身に付ける。 					
5 今年度の具体的な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇社会の変化に対応できる基礎学力と学び方を身に付ける学習活動を推進する。(学習支援) ◇個々の生徒の興味や適性に応じた、きめ細かな進路指導を推進する。(進路支援) ◇個々の生徒の特性を的確に把握し、その伸長と自立する力の育成に努める。(生徒支援) 					
年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
6 評価項目 領域・分野	7 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	8 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	9 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	10 評価 A・B・C・D	11 成果と課題	12 総合 評価
1 【学習支援】 社会の変化に対応できる基礎学力と学び方を身に付ける学習活	①少人数授業やICTを活用した学習活動を推進し、学習の理解につながる指導を展開します ②全教科で授業アンケートを実	①個に応じた資格取得を目標に掲げさせ、目標に向かって取り組ませます。 ②授業アンケートで「授業の	①肯定的な回答をする生徒の割合は、79.0%であった。保護者対象のアンケートは69.0%が肯定的であった。 ②前後期に2回実施したアンケートで	B	○生徒の興味関心を高め、個々に合った指導を展開するため、多くのICT機器を有効に活用した。 ▲資格取得は商業科の取り	

動を推進します	施し、授業改善を推進します。	組み立てがよい」、「理解を確かめながら進めている」と答える割合が70%を得られたか。	「授業の組み立てがよい」、「理解を確かめながら進めている」の両項目において、肯定的な回答したあり合いは約84%であった。	B	組みであるが、学校全体の教育活動として位置付けること。またキャリア教育と結び付け、卒業後の進路にもつなげる継続的な指導体制を構築したい。
	③個に応じた資格取得目標を掲げさせ、目標に向かって取り組ませます。	③学校評価アンケートで、「学校は資格試験等に対する指導をしている」と答える割合が70%を得られたか。	③まだ今年度の検定結果は出ていないが、肯定的な回答をする保護者の割合は89%であった。生徒も83%が「前向きに取り組んでいる」と回答した。	A	
2【進路支援】 個々の生徒の興味や適性に応じた、きめ細かな進路指導を推進します。	①外部講師による進路ガイダンスや就職指導講習会を実施して、様々な仕事に対する認識・理解を深めます。	① 学校評価アンケートで「生徒が進路情報の適切な提供を受け、指導を受けた」と答える割合が70%を得られたか。	① 予定通り「進路ガイダンス」や進路指導講習会」を実施することができた。アンケートで肯定的な回答をした生徒の割合は80%であった。	B	○本人の希望と保護者の思いを丁寧に聞きながら、現実をふまえつつ、その適性に応じた進路先を共に探していくことができた。 ▲生徒自身のやる気を引き出す援助をしていくが、それぞれのスタートが異なるため、完全な個別指導になりがちである。早めに活動ができるような工夫が必要である。
	②各学年、時期に合わせた進路情報を様々な場面で提供します。	② 学校評価アンケートで「保護者が必要とする進路情報の提供する場が得られた」と答える割合が70%を超えたか。	② 三者懇談会等で「進路のてびきを配布し、内容の説明ができた。アンケートで肯定的な回答をした保護者の割合は83%であった。	B	
	③早い段階から、一人ひとりの進路希望に応じた個別指導を実施します。	③ 学校評価アンケートで「生徒の進路希望に沿ったアドバイスが得られた」と答える割合が70%を超えたか。	③ 「教育相談」「三者懇談会」等で得られた情報や希望により、継続的な個別指導を進めることができた。アンケートで肯定的な回答をする保護者の割合は78%であった。	B	
3【生徒支援】 個々の生徒の特性を的確に把握し、その伸長と自立する力の育成に努めます。	① 積極的な情報発信を心がけ保護者との連携を深め信頼関係を築きます。	①学校評価アンケートで、「保護者の悩みに対応してくれる」と答える割合が70%を得られたか。	①肯定的な評価の割合は80.0%。担任が中心となって、保護者と連絡を密に取り合うことで、信頼関係を深めた。 学校からの情報発信については、文書配布は83.0%、HPが78.0%、一斉配信メールが83.0%と、肯定的評価の割合が高かった。	B	○学校生活全般を通して、生徒と良好な関係を構築し、生徒理解に努めたことで、全職員が生徒の様子や情報を共有し、保護者に対しても、迅速に対応することができた。 年4回の教育相談週間、年2回の三者懇談を通じて、生徒理解に努めることで、生徒間トラブルやいじめ等での大きな問題は回避することはできた。来年度は一層の充実を図りたい。 ▲生徒とのコミュニケーションを図り学校行事を検討する。
	②教育相談や様々な機会を通して生徒理解に努め、一人一人を認め、励ます生徒指導を推進します。	②学校評価アンケートで、「一人一人の良さや可能性を伸ばしている」と答える割合が70%を得られたか。	②肯定的な評価の割合は94.0%。アンケートや諸調査の結果も踏まえて、全職員で対応している。	A	
	③充実感や楽しさを感じる特別活動（生徒会行事・部活動）や学校行事を推進します。	③学校評価アンケートで、「学校行事が充実している」「成長の糧となるような行事を行っている」と答える割合が70%を超えたか。	③肯定的な評価の割合は約86.0%。ボーリング大会、各務原航空宇宙博物館見学、校外研修、映画鑑賞会、球技大会、蛍雪の会を生徒会行事として実施した。新しい行事の提案もあり実施で	A	

B

			きてよかった。		
II 学校関係者評価 実施年月日：令和6年2月8日			12 来年度に向けての改善方策案		
【意見・要望・評価等】 <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット等のICTを活用した学習支援はこれからの教育現場ではますます重要性が高まるため、今後も有効に活用していただきたい。それに加え現在は、様々な困難を抱えた多様な生徒が在籍しているため、対面による少人数での授業により、個に応じた手厚い授業や学習活動ができるという定時制の利点をこれまで以上に大切にしていきたい。 ・企業の皆さんに来校いただき企業フェア等を実践することも手段の一つだと思う。 ・人間の心の健康の充実を図るために、福祉との交流会やLGBTQをはじめとする人権問題を正しく理解する講演会等を充実させてはどうか。 ・進学実績のある大学等と連携し、より高度な教育研究を垣間見る機会を創出するなど、さらなる学習意欲の掘り起こしのツールとして活用することも有益ではないか。 ・今後も、授業、教育相談、学校行事等の学校生活全般を通して、生徒理解に努め、個々の生徒に合わせた対応をよろしく願いたい。 			<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の集中力を持続させ、基礎基本的な学力を定着させるために、整備されたICT機器をさらに有効に活用するとともに、個に応じた指導ができるという対面での少人数教育の良さを活かしていく。 ・進学、就職において進路ガイダンスをより充実させ、また進路意識を高めるための「キャリアパスポート」の効果的な運用を引き続き検討していく。 ・保護者との連携をさらに強める方策を考え、推進する。 ・来年度も様々な講演会等を予定している。講演内容など講師と十分に検討し、生徒の実態に合わせたものにする事で、生徒にとって意味のある講演会にしていきたい。 ・教員同士のみならず、保護者、スクールカウンセラー、外部機関など積極的な連携により、多方面からの情報を得ることで、生徒一人一人に応じた迅速かつ的確な支援へとつなげる。 		

